こんやうえ

慈訓の巻

八八

人のいのちをつなぐ命の根なる稲をよく作りくださる御めぐみのあつさをおもへばいかにあつくも感謝禁じがたく候。皆様益御清祭大慶此事に候。滿洲をすまして當地に（朝鮮平壤聖頂寺より大正六年八月七日消印）聖旨に仕へまつり候。時分柄御自愛是祈り候

八九

大ミオヤの光明は常に何れの所にも照りわたり居る故に人の金剛石の心さへ磨くときは必ず反映する。けれども金剛石は灰や泥では磨くことはできぬ。心靈の金剛石は人道的道徳や倫理の法などではみがけぬ。只念佛三昧の妙行を以て磨くべきである。一心の金剛石が磨く時は彌陀の日光が反射して宛ら觀世音ぼさつの頭に彌陀光王が常に載られてをるやうに登代子のきみの頭にも常に彌陀の光明が赫々として照りつゝあ

るやうになる。かくの如きの人格にして高崎の女子を指導することが出來る。登代子のきみよ。どうぞ一生は一生である。善いこと尊いこと正なることなれば憚ることはない。一心不亂に力行し給へ。されども彌陀の光明を離れることは闇黒の惡道に墜ちゆくことなればむしろ爲さゞるに如かじ。

九〇

御端書拝見仕候。歸京以來夜を日に紹ぎて道の爲にいそしみ、病氣はよいのか惡いのかまた退くのか一向分り申さず。分らぬ者に構けてるゐ必要もないと存じて、矢張り日々の仕事がせはしく候。今日より五日間夜九時迄小石川原町一行院にて宗大生の有志等と別時三昧をつとむることになり來る一日夜刻には出高候間宜敷御準備のほどを願候。

九一

肅白大暑の候皆様御機嫌よく大慶此事に候。もはや御盆に近づき定めて何かと御せはしなき事ならんと存じ候。愚衲一先月末に出立九州にて先月中つとめ本月一日より當寺に於て別時三味つとめ七日に至り候。來月十八日より信州上諏訪の唐澤の阿彌陀寺にて七日間別時三味をつとめ申候。若し御くり合せ出來る方は御入場なさるゝやう御すゝめ下されたく候。田中徹様が本月一日より唐澤にゆきて念佛つとめ居り候。九地また當地方よりも少しは唐澤に至り候。唐澤阿彌陀寺の方にても非常に悦びて澤山來てつとめてくれるやうに能くせはしてくれるとの事に候。二十五六名位はよろしいとの事に候。大分御あつさが嚴しく候故御自重是祈候。皆様によろしく御傳言下されたく候。歸途舞子と大阪府下の三島郡豐川村笹川市兵衛と云ふ方にて少しつとめそれより名古屋を經て信州からさはに至り候。

九二

此頃の桃の果よく熟して味が甘くなりしことに〳〵清き友の衆の信仰によりて熟してます〳〵甘く爲るやうに願はしく候。それにしてはいつも〳〵念佛して、如來の光明に沐せざれば信仰は熟し難く候。されば稱名を專らにして大光明に浴しいよ〳〵美しき信仰の增長せんことを願はしく候。先は御すゝめまで如斯御座候和南。

一四四

九三

先日は結構なる珍菓の贈物に預り多謝候。今回京都より四名の修道者の御出でに成り其他の修行者にも幸に之を供し申候。先頃來御不快にありしとの事時分柄殊に御自愛是祈り候。本年は比較的熱さもゆるく候。土用あけて夜分には秋風も徐ろに吹き來り候。

四時の佳興さながら如來法身の顯現とおもへばゆかしく存じ候。

九四

六合に輝く太陽東のかたより蒼海原の淸き潮に面を洗ひつゝ昇りなされて天は明らけく地は淸く潔よき頃ほひに玉のやうな男のお子さんが初聲を揚げられし櫻井家の幸をめで天地のなかにひとり尊き大みおやの御惠に彌泰らかに成育せられんことを祈り奉り候。

九五

未のとしを迎へて　よろこびの光の御名をたゝへてはまづ新玉の年を祝ひつ。
大みおやの賜なる時の貴ときを覺えければ
またもなき賜ものてふる日と時をたゝいたづらに過ぎまじものよ。

一四五

九六

言ふまいとおもへどけふのあつさかなとは加賀の千代とやらの句とやにきゝにき。實にいかに卿ちしとてすこしもあつさが退却することはないとはたれもしるものゝ胸のうちがすぐに言にあらはすことのあさましさ。

殊に〳〵考へてみれば此頃のこの熱さこそ私どもすべての人くさのいのちを養ふいのちのねなる稻をよく實らしめて子を育まんとの大みおやの御はからひとおもはゞただ〳〵勝手をいふことの愚さよ。

さて其のちは疎遠にすぎぬることの我つみをゆるして給へよ。願れば去年の此頃蟹下の園生のもとにて朝な夕なにしたしみにしことどもをしのばれて、おもふも床しき高崎のときはに匂ふ櫻井の庭に咲ぬる信念のきよき花はます〳〵彌さかへて香はにほふらむ。

大みおやのいつくしみによりて咲べき心の花はすべての花のなかに最も麗はしきものにて候。櫻井の御一統の衆の色をきそひ香を爭ひてます〳〵心　花のいやさかえゆくことをいのり候。御一統の衆によろしく懇納の衷を御つたへ給はんことを希　候。

御母堂さまには去年の此頃は御あつさにいたつきなされしも今年はます〳〵御すこやかに過し給ふや。

今年は果樹園はいかゞに候や。大みおやはよき果を結ばせて給はらんとの聖意より日光を以て御こゝろをそゝぎ給ふ其聖旨に隨順してよき果實を造るこそ孝道とは申すらめ。

一四七

九七

今としは暴き風雨の度々襲ひ來りしにつきてはかやうに感ぜられ候ひき。

大みおやの御恵みにみたさるゝこの天地のあひだに潜みかくるゝ人手だにも有らはづはなかるべきに颶風などといふ恐ろしき惡魔は現はれ出て我同胞を激しき浪のなかにまきこみて忽ちにいのちを奪ふにいたるとはいかにも憎きしわざにて、それにつけてもわたくしどもも、暴風雨のやうな忿怒といふ惡魔が胸のうちよりおこさぬやうにつゝしまねばならぬと深く訓誡を與へられしことに候。

其後は打ち絶えて御無音にすぎしことのいまさら慚愧に耐へず詫び入りまつり候。頭を垂れて願れば去年のけふ此頃は沼田の里よりも立ち歸り再びにほふ香も床しき蟹下の園生にありてなつかしき櫻井のきよき友がきと道の話をかたりあひしそのゆゝみを偲ばれて、小夜ふけて硯をあらひ筆をとり先は我大みおやにぬかづきまつりて、あなたの御ひきあはせで高崎のかぐはしき櫻井の法の同胞に道の契りをむすびつゝ此世ながらに光明のなかにすまひして、のちには同じ八功德池の蓮の上に無上の妙味を共に味ふことの出來るやうにして給はるは、全く如來の聖旨なればたふとく感謝し候。願くば我きよき同胞よ大みおやの深きおじひを忘れ給ふなかれ。

九八

欽しみ申進じ候。

時下冬至に接し餘程寒きを感じ候折皆様いかゞ在らせられ候や 伺上候。

いつもながらの御無音のみ心には忘るゝことなきも毎々眼前の事にせまりてつひうかうかと過しておもひめぐらせば昨年のけふ此頃中は齒科醫にて療養をかね蟹下苑の古枯の葉を眺めつゝ殺鬼の中にも苑生の樂しみを感じつゝ日の經るをもうち忘れて暮しつゝありし日は已に一とせ昔とは成りにけらし。まことに世は夢まぼろしのいつの間にかは明かし暮して過ぎ行きぬ。

觀世音のこゝろには常に如來宿らせ給ふごとくにあなたの胸のうちに常に慈悲のみおやなる如來さまは往來していますのでしやうあなたのこゝろに在すみおやも私の胸

のうちに宿らせ給ふみおやも同じ慈悲のあたゝかなる御方にてまします。昨年のけふ此の頃に比ぶればあなたの心のうちにまします如來さまは云何に候や。如來さまはあなたの胸のうちより外に出でまして大概は御留主に成つて居るやうなことはございませぬでありましやうか。

それでもあなたが他のいろんな事にばかりくつたくして心に御あしらひ申上ませぬと、いかに慈悲の深きみおやに在しても、あなたの氣に合はぬとやはり常に在まさぬやうに成りましやう。

私は久しく御訪ね申すことの出來ぬのが深く遺憾に存じますけれどもそれでもあなたの胸のうちに私の胸のうちに在ます如來さまと同じ如來さまが大概はましますとおもふとうれしく存じ候へども、それが薄らぐやうになると何ともなげかはしきことに候。

如來さまの御機嫌麗しくあなたのこゝろのうちに光明かくやくとして朝日の輝くごとくに新たに、夕日のごとくに美しくいませばほんとうにうれしくて候。若しそれともあなたの胸のうちはせまくるしく夕がたのつめたい風のやうにつめたく、少しも日の顏見ぬさびしいやうなものにあなたの胸のうちが襲はれてゐることは有ろうとは存じませぬが、若しそれでも有るとしたならばいかになげかはしいのでしやう。

一生懸命に念佛三昧の時に線香の立てしまゝのを知らず居たうちに經つやうなことなればます〳〵大みおやのなかが眞にむつまじいのであります。だうかそれのみ念じまゐらせ候。昨年の今頃をおもへば千感に耐えず一筆しるしてまゐらせ候。何れ來春の御面會を樂しみ候。まづはあら〳〵如斯く御座候。

九九

此頃の熱さの強いのは一年の命をつなぐいねの實を能くみのらせんとの、大みおやの思召と信ずる時はあつさのつよきほど還つて有り難く感じられ候。皆様御あつさに

云何在らせられ候や伺候。懇衲昨日歸京候四國九州到る所に光明主義が盛んに行はれ候こと全く如來さまの聖意の然らしむる所と深く感じ候。

一〇〇

蟹下の苑生に秋の梢の黄に紅に麗はしきいろも訪かけぬらむとはるかにおもひ候。

宗祖大師の

阿彌陀佛にそむる心の色に出でば秋の梢のたぐひならまし。

大みおやの恩寵の光に浴し梢の紅葉のごとくに彌々麗はしき信念の彌増さんことをあなたの身にいのり候。

一〇一

胃腸も健全になりて

大みおやさまに仕へ奉つることをうるも御蔭と存じて難有感じ候。

おもへば月日の過ぎゆくことは疾くしてもはや今とても余すこと二月とは成りにけらし年は暮れぬれどもそれでも大みおやの大光明中のこゝろは常にかゞやく、中に安住しぬればいつでも難有いではありませぬか。何は兎もあれ角もあれ

大みおやの恩寵のなかに暮さるゝこゝろに成りしことを悦びなされ候へ。

一〇二

七重八重咲き匂ふ櫻花も散りそめていまは今年の春の名殘を告ぐる今日とはなりにけらし實に日月の過ぎゆくことのいと疾きことよ。あつき昨年の其の日も偲ばれて蟹下苑の園生の花もなつかしく。

さはれ天地萬物悉く

大みおやの慈悲のみ手にかゝらぬものもなきと信ずれば苑の花咲匂ふ香もゆかしけれ

一〇三

別封にて申進め候。外の事に無之今回千葉縣下の成田の附近に布鎌と云ふ村に光明會堂を建設候。尤も是は十何年の信者のありし所。

此土地は至つて人も質朴にてよき風にて候。都合に依りて光明會の基本の土地を購入する事に致し度存じ候所、恰度今回凡そ米が五十五六俵の小作米の田地が光明會基本に買入れ候事に取り決め候大概は當方に金は有之候へ共少額不足と存じ候につき甚だ恐縮に存じ候へども先月御送り申候奥村辨誠の名義なる貯金通帳を一先づ本人へ御還附被下度候。

一〇四

欽しみ申進め候。過日滯在中は厚き御饗應に預り多謝候。其砌申進じ候光明會基金として此の帳簿より御受取被成度候。高崎光明會（清き友）管理然るべき銀行へ御預け置下され候。此利子は三橋秀夫學資の内へ御まはし下され度候。

會堂建築の件は皆様にて御盡力の程を希望に堪えず候。觀音百畫は認めることにいたし候。

此程海沼老尼の御話に自分達の食物は月に何回か托鉢すればそれにてゆくことゝ申され候。

會堂建築費は觀音百畫に月掛の講にても立ち行はゞ出來ることであろうと存じ候。

一〇五

大みおやは實に宇宙の廣大なる設備を以て吾人一切衆生を此地上に生息せしむ。天に日月星辰縣り地に萬物生成す。萬物の行はるゝ處秩序の整然たる條理の能く調へる此備を以て人類を養ふ吾人々類は萬物の靈長として精神生活す。他の動物に等しく唯肉體の生活にのみ目的あるにあらざらん。

此宇宙大目的の光として宗教なるものあり。吾佛陀釋迦は是が爲に現はれたり。釋迦の教ふる所に隨へば然り宇宙の唯一の絶對的尊崇すべき無量光如來威神光明最尊第一にして十方界を照臨す。

太陽は物質界を照す。如來は心靈界を照臨す。地上一切の生物一として太陽の光によらずして生存するものあることなし。然して如來の靈光を被むるものは心の三垢消滅し身も心も清く安らかに聖き德が得らるゝ。

釋尊を始として一切の聖人等は悉く彌陀の靈光によりて靈的生活なされしものである。

宗教の宗とする所は精神に如來の靈光を被むりて靈的生活をなすにあり。靈的生活に現在を通じて永遠の生命なり。

此靈的生活いかにして得らるべき。

念佛三昧にて得らる。念佛三昧とは口に佛を稱ふると共に心に常に如來を憶念するにあり。如來は心靈界の太陽なり。心靈界の太陽を念ずる時は、我心も光明の裡に在ることを覺る。此靈光と融合し光明の生活となる。宗教の目的こゝに在るなり。

願くば御一家此からだが太陽の光明中に在ると共に精神に如來大光明中に生活せられん事を祈り候。

一〇六

欽しみ復す。先頃來病床に在らせられし御老翁皆々樣の夜を晝に紹ぎての御看護ま

た藥石の効も稱はず今は永眠の途に就き給ふとの訃音に接し今更の感に耐えず候。

願くば別回願の文を靈前に備へ下さることに爲し給はんことを。

願くば皆樣ともに血族回向とて親しき緣ある方々の眞實心よりの回向は最も强き力あることを信じて誦經念佛して冥福に資し給はんことを御すゝめ申上候。

一〇七

さてもはや春氣も徐々として新綠萠しを爲すの準備として樹木も心安うすやあらんとおもはるる此頃皆々樣の胸のうちにいよ〳〵萠發せんとして動き出したる此の時季を逸せず、ます〳〵いよ〳〵麗しき馥はしき信心の新綠を滿足に成長せしめんことをこそねがはしく存候。世にまたとなき聖き心を萠すべき時に霜や霰に遇ふときは遺憾此事に候。皆樣が大みおやの御じひの暖かなる氣候に催されて咲き出でたる心の花こそは清き御國の大みおやの慈悲の懷に抱かれています智光朗然童子のこゝろをなぐさむるのであります。

日を經るに隨つて悲しみの薄らげると共に大みおやの御慈悲を念ずる心も薄らげるやうな事では朗然童子の折角の御みちびきにつかはされたつとめも空しく成りますから、いよいよおやさまよ〳〵と大なる御慈悲のおやさまをおもふこゝろはます〳〵深からんことを祈り候。

世に大みおやの慈悲の光に充たされた心ほどきよらかにして且つ麗しきかぐはしきものは有りませぬ。されば經に佛を念ふ人の心は是れ人の中の白蓮華である。されば觀世音ぼさつもまた勢至ぼさつも其の勝れたる友と爲つて下さると示されてあります。

あの觀音ぼさつの麗はしき姿色は大みおやの慈悲の光に滿さるる心の面てに現はれたのであります。さればあなたがたの御こゝろのうちに大みおやの慈悲の光に滿さる

る時のこゝろは矢張り觀音さまと同じやうであります。

赫々と照す朝日の麗はしさを贈る時でも、もつと〳〵麗はしき大みおやの慈悲の面かげをおもはぬでは居られぬ。日中の光を見るにも我等は寝てもさめても御慈悲の光明中に居るのは、なほ〳〵ありがたいと感じられます。西に入る日のかゞやくをおがみても大みおやのホントウにかぎりなき御慈悲のほどをおもはぬでは居られぬ。

天も地も此世も後の世も、からだも心も、共に大みおやの御恵みによりて、活き、あり、また恵まれつつあり、永遠につきぬ命も賜ると信ずる時は、いつでも感謝の念佛が出でざるを得ぬ。然るにうか〳〵して居ると、只肉體の自分勝手のこゝろばかりは發達して、如來さまの子であるきよき靈はいつの間にかは痩せおとろへてしまふ事になると實に遺憾千萬な譯にて候。

おやさま〳〵とおもふこゝろが、ナムアミダ佛と聲にあらはるゝことにて候。おやさまをおもふ時は、おやさまのなかに居るこゝろでありますから、ありがたきこゝろにて候。

一〇八

起信論を拜見しますと、か樣に御示しに成つて居ります。

如來樣は十方世界一切衆生の大おや樣でありますから、一切の衆生が大みおやの常樂のみやこを離れて、生死のちまたにさまよひ生れては死し、死しては生れ、生々世々に浮ぶ瀬もなく、輪回するを憐みて、衆生を救ひ出すにつけて、大慈悲の御方便が二あり。一に平等緣、二に差別緣。平等緣と申すは、天に天道さまが普ねく平等に照して差別なく光を與へる如くに、阿彌陀如來の慈悲の光明は、普く十方一切の衆生を平等に助けんとの御誓は一切衆生に平等にかゝりて居るけれども、それは凡夫には煩惱に眼がさへぎられて分らぬから、迷の凡夫の爲には差別緣を以ておみちびき下さる。それは卽ち佛さまの御使として或は親となりて其子をみちびきて如來の慈悲の御手にすがるやうになされ、または夫婦となりてそのつれ合ひをみちびき、または可愛

き子と生れて其親を信仰にみちびきて、而して未來永遠にまでたすかる志を發させると云ふ意にて、起信論には明されて有ります。然れば皆樣はいかゞに思召すかはしらず、御小兒はほんとうに可愛いすがたを以て如來さま卽ち天の大おやさまの御使ひとして、みなさまをみちびきしてこの世はかぎりあるけれども、未來永遠にかぎりなき大みおやの光明常にかゞやく御ひざもとに歸ることの出來る信仰と安心とをつげなされよとの告げ知らせん爲に、如來の御使として此世に出なされたのであります。惜しき生命をすてゝまで皆さまを永遠のいのちにみちびかんとする御小兒の天の使命は實に重いつとめであります。その御小兒の天の使命が全くみなさまの心の奥底に感じてたましひまで御信仰が發り未來永遠にまでたすかる信仰が發りますれば、それではじめて御小兒は大みおやの使命を果したので、如來さまの御ひざもとで善哉と御ほめにあづかるのであります。

御小兒の御わかれについて、あなたがたのかなしみの深いほど大みおやさまの御慈悲が深いのであります。

たとひ如來さまが光明かくやくと照してあなたがたに御說法して下されてもあなたがたには眼に見て有り難いとは感じませう、されど心の底からは我身の一大事の信心は起りませぬ。それゆへいと可愛い御子と生れてあなたがたを御みちびき下されたのであります。全くみなさまを可愛い我子とふかく〳〵思し召さる御慈悲のおやさまの御むねをよくよく御くみとりて、ます〳〵御信仰を深めて眞實に親も子も未來は一つはちすの上にたのしき身と成るやうに御すゝめ申します。

或人が申されました、世の中に可愛い子に死にわかれて非常に悲しみて居つても、只心をいためて泣くばかりの愚痴の親は眞實に子を愛する心ではない。私はひとりの可愛い子に死にわかれて悲しくて〳〵たまらぬから、どうかして其子に再び遇ひたいどうか其子と一所に成りたいとおもふて、どうしたならば遇ふことが出來ましやうと思ふて、或知識の敎によれば、御慈悲の親樣の淨土にゆけば自由に遇ふことが出來る。

然るに大おやさまを親まずして六道の中に迷ふて居たのでは、いづこに生れても可愛い子に遇ふことが出來ぬと聞いて、それから是非かはゆい子に遇たさのあまり一生懸命に御慈悲の親さまを御たのみ申し念佛が心底から出るやうになり、心底から御慈悲の親さまをおしたひ申すやうになりましたと話された事があります。

どうかこのたとへは眞實に御小兒をおもひなされなば、眞實に御慈悲のおやさまを御たよりさるゝやうに御すゝめ申します。

一〇九

御寒さ日增に進みゆき候折御全家益御多祥奉賀候。小衲も御惠みのなかに魔事なく消光罷在候間乍他事御休神被降度候。

もはや本年も僅少の日かずとは相成御繁忙のほど察し上げ候。

御忙しきなかに觀じ給はんことを希ひ候。

天地萬物は悉く自然の理法を掌り給ふ法身阿彌陀如來の攝理する所より成るものと信ずる時は稻の收獲すべての榮類みな自然の力によらざるなし。大みおやの御力より成れる物とすれば稼穡悉く大みおやの所作を翼賛するものと謂ひつべし。しからば卽ちいかにせはしなき事も、如來の命令が業務なれば日々の產業みな佛行なり。

大みおやの命的業務を力行するにいさみ進みてよろこびて作す時は悉く大みおやの聖旨にかなふものと謂はん。

徳川家康公の師たる登譽上人が公に示し給ふに

農夫は簑笠を被て佛道修行を作し武士は弓矢の雨をおかして菩薩の行をはげむべしと。其心すでに菩提心（念佛心）なれば業とし佛道ならざるはなしと、仰せられし。

獨乙國神學博士ケーラス君あり、世界知名の宗敎學者なり。世界各宗敎を總括して研究して佛敎の最高等なるを絕號し『アミダ佛』てふ書を著して、大乘佛敎の眞理を語れり。

曰く、法身アミダ佛は一切有情（生物）の光明なり。我ら此光明を前途に認めて進む法身佛は我らを苦海の浮沈より救ひて彼岸の寂靜に導く。浮沈するは彼等の自業自得なり。常樂の園に至らしむるは如來の願力なり。而も此の光明の願力を悟らざるものあり。此の如きは不覺の迷闇に出入して究竟して歸する所を會せず煩惱泥中の人となり了る。若しそれ頂門に一隻眼を有するものは生死の大海に浮沈して而も法身佛常住の處を知る。苦必しも苦ならず樂必しも樂ならず何となれば彼は生死の根本的意義に徹底したればなり。

佛の所說は寂滅にあらず、枯木寒巖に倚る如きに非ず。我靈性を發揮し我を離れ知慧と德と圓滿にするにあり。佛敎は我を捨て俗情を斷處にあらずして、之を靈化する所にあり。生の妙用を害するにあらずして無明を除き、懈怠を退け瞋恚を去り而して常樂我淨の淨土を此土に現成し圓滿我も衆生と共に法身無量光佛の性德を念ずるにあり。

右ケーラス先生の著アミダ佛の一節を拔萃せしもの、要は如來の光明をさとりて日々の生業を作す時は一切所作佛行となり、また如來の光明を獲得する人は此世ながらに精神は極樂に安住することを得て而して又永遠不朽の極樂に達することを得るとの意にて候。

一一〇

ながらく御心盡しの御饗應にあづかり深く謝し上げ候。

大みおやさまは天道樣の御照のように、あなたを晝も夜も常恒に照し護りつゝあることを、あなたは忘れなさらぬのでせう。おやさまほどあなたを愛して下さる御方が宇宙間にありませうか。

此からだのおかあさんは矢張り大みおやの慈悲の代理として、あなたのからだについて愛して下さるのである。大みおやは靈の大御親としてあなたの靈を愛して下さる

のである。靈の大みおやは靈性の開けた人でなくては識ることが出來ぬ。

靈のみおやの慈悲の靈乳をうけて信仰の眼が開けて見れば眼には見えねども、大みおやの靈光に觸れて何とも云はれぬ靈感が得らるゝのである。あなたの心を靜めて、しやばの事が心になくなつた時に、唯ひとり大みおやの靈ばかりが、光明赫耀として在るのである。

あなたの蟹下の園に在りて天を眺めて居る時にあなたの胸のうちに靈の感じが有るでしやう。

大みおやの靈はあなたをしやばの闇のなかに光を與へ心は闇のなかへ閉ぢられてくらく成つた時にも、大みおやは靈き光を以てあなたの心を光明にみちびきて下さる。

胸のうちにもろ〳〵の惡鬼邪神に競ひおこりてこゝろをなやます時も大みおやの慈悲の光はあなたをたすけ下さる。大みおやと共に寢ね、共に起き、行住坐臥はなれぬところに安きは與へられつゝあるのである。

一六八

一一一

御佛にさゝげたる身は捨て小舟、吹き來る風に浪のまに〳〵流れ來て、いまは西の海路の筑紫がた緯度がかはれば隨つて氣候も同じからず、此地にてはもはや櫻は散りはてゝ、今としも春の名殘り心地すれ。見渡す耕地には菜の花さかりなれども、今としはよほど氣候がをくれしものと見へて雨をもち來る風は暖かとも云ひがたし。矢張り衣物は東京出るときのまゝにして、たまにぬく位にて、西の筑紫に今日ある身の偲ばるゝは、明けぬる年のはじめつかた、なつかしき蟹下の苑生にて、朗らかによみし聖經の聲は今になほ聞く心地してぞ。而して觀音ぼさつのようなひとのきよらけき讃歌の和雅の音は再び聞かまほしくぞ、神通自在の身なりせば日々に通ふて共に大みおやの御慈悲をかたり、また聖經をも俱に讀むべきものをと、東のかたにむかふてぞ清き家どもをおもふ。

一六九

あなたは光明歎德章は日々に御よみなされるのでせやう。御慈悲の大おやさまの十二の光明のみ名につきて禮拜をなさることはいかゞあります。

いろ〳〵御話しいたしたき事に候へどもまたの日に讓りて候。

ます〳〵信念の增長なさるやうに是祈り候。

一七〇

一一二

月日の過ぎ行くことのいと疾きことよ。夏の景を現したる蟹下の園生の樹々も秋もすぎ今は木枯の冬の色を呈したるならむ。

自然の氣候は冬の寒さと相成候へども如來さまのいとあたゝかなる御じひのなかに、心をすませぬれば、ときはの春の櫻井に花咲きにほふ心地して、いつもありがたく、またよろこばしき御日ぐらしが出來らるゝのでありませう。

思ひながらもつい御無音にうち過して候。矢張り日に〳〵忙しなきまゝにそれでも御許さまのます〳〵御信心がすゝみゆき御光明の中に御日ぐらしなされありといふことをうけたまはりて深くよろこび申候。

一昨日長澤かむ子きみが御出に相成り候節も御許樣の御信仰のいよ御すゝみなさるといふことを承りました。

阿彌陀經をもよく御よみに相成居るとのこと大おやさまに此頃ではよほど御なつかしく相成り居ることに候はんと存じ候。

御さみしい時でも大おやさまを一すぢに御賴み申しまゐらする時は、いつしか心ゆたかににぎやかに成り候べし。

尙くさ〴〵申述度事多く候へどものちの便りにまでゆづり申候。

一七一

一一三

いろはにほへどちりぬるを、桃もさくらも一さかり、げにあだし世のはかなさは、常なるものぞなかりけり。

一たびひらきてとことはに、かはらでにほふはいときよき、ひかりによりてさきにける、人のこゝろの華ならめ。

世の中の人の愚さよ無常といへは言葉にさへいみながら、無常なるもゝやさくらの花をまたなきものにめでゝ、心にさけるときはの華を見むともおもはでこゝろをよそにのみはせて生涯を夢のなかにくらしぬることはあなあさまし。

願くは心の華をながめんことをのぞむ。

過日の御好意を謝しみなさんの幸をいのる。

昭和七年九月十三日　印刷　　誌代郵税共
昭和七年九月十五日　發行　　年二四
編輯兼發行人　小石川區關口町六十五番地　山崎辨成
印刷人　小石川區關口町六十五番地　小林七太郎
印刷所　東京市小石川區水道端二丁目四十四番地　靜文社印刷所　電話牛込五四一九番
ミオヤのひかり社
振替口座東京六六八五一番